

**【表紙】**

**【提出書類】** 四半期報告書

**【根拠条文】** 金融商品取引法第24条の4の7第1項

**【提出先】** 関東財務局長

**【提出日】** 平成28年11月10日

**【四半期会計期間】** 第14期第2四半期(自 平成28年7月1日 至 平成28年9月30日)

**【会社名】** コムシスホールディングス株式会社

**【英訳名】** COMSYS Holdings Corporation

**【代表者の役職氏名】** 代表取締役社長 高 島 元

**【本店の所在の場所】** 東京都品川区東五反田二丁目17番1号

**【電話番号】** (03)3448 - 7100

**【事務連絡者氏名】** 取締役財務部長 尾 崎 秀 彦

**【最寄りの連絡場所】** 東京都品川区東五反田二丁目17番1号

**【電話番号】** (03)3448 - 7100

**【事務連絡者氏名】** 取締役財務部長 尾 崎 秀 彦

**【縦覧に供する場所】** 株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

回次		第13期 第2四半期 連結累計期間	第14期 第2四半期 連結累計期間	第13期
会計期間		自 平成27年4月1日 至 平成27年9月30日	自 平成28年4月1日 至 平成28年9月30日	自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日
売上高	(百万円)	128,720	132,209	320,654
経常利益	(百万円)	6,862	6,456	24,223
親会社株主に帰属する四半期 (当期)純利益	(百万円)	4,545	4,128	15,420
四半期包括利益又は包括利益	(百万円)	4,401	4,152	12,546
純資産額	(百万円)	192,644	197,624	196,543
総資産額	(百万円)	242,513	251,328	266,066
1株当たり四半期(当期) 純利益金額	(円)	40.00	36.63	136.75
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額	(円)	39.83	36.51	136.18
自己資本比率	(%)	79.0	78.2	73.4
営業活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	14,163	16,458	13,089
投資活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	3,556	3,703	7,303
財務活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	6,686	6,081	11,307
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高	(百万円)	38,260	37,127	28,818

回次		第13期 第2四半期 連結会計期間	第14期 第2四半期 連結会計期間
会計期間		自 平成27年7月1日 至 平成27年9月30日	自 平成28年7月1日 至 平成28年9月30日
1株当たり四半期純利益金額	(円)	30.61	26.47

(注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2 売上高には、消費税等は含まれておりません。

#### 2 【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、コムシスグループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社の異動については、「第4 経理の状況 1 四半期連結財務諸表 注記事項(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)」に記載のとおりであります。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

### 2 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等はありません。

### 3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

#### (1) 業績の状況

##### <コムシスグループの業績>

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府や日本銀行による各種政策を背景に、企業収益や雇用環境が改善するなど緩やかな回復基調にあるものの、中国をはじめとするアジア新興国の景気減速や英国の欧州連合（EU）離脱問題などの海外経済の不確実性に加え円高・株安など、先行きは不透明な状況が続いております。

コムシスグループを取り巻く情報通信分野におきましては、スマートフォン・タブレット端末の多様化・高機能化に伴い急増する大容量のトラフィックに対応するため、モバイルネットワーク環境の構築が進められております。また、公共・民間分野におきましては、あらゆるものがインターネットにつながるIoT、自ら学習し高度な判断が可能となるAI（人工知能）などICTを活用した新たなイノベーションや国土強靱化施策、環境・エネルギー事業及び東京オリンピック・パラリンピック開催に向けた社会インフラ投資の拡大が期待されております。

コムシスグループといたしましては、太陽光建設工事をはじめ、太陽光発電を活用したグリーンイノベーション事業への参画、スマート社会に向けた公共投資・ICT投資の増加に対応した新たな事業領域へのチャレンジ及びM&Aの実施等トップラインの拡大に取り組んでまいりました。また、成長事業分野への要員流動、施工効率の向上及び経費削減等の利益改善にも努めてまいりました。

このような状況のもと、当第2四半期連結累計期間の業績につきましては、受注高1,786億1千万円（前年同期比9.8%増）、売上高1,322億円（前年同期比2.7%増）となりました。

しかしながら、損益につきましては、構造改革による生産性向上に努めたものの、子会社の連結化による営業費用の増加等により、経常利益64億5千万円（前年同期比5.9%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益41億2千万円（前年同期比9.2%減）となりました。

##### <セグメント別の業績>

セグメント別の業績につきましては、以下のとおりであります。

（単位：百万円）

報告セグメント	受注高		売上高		セグメント利益 又は損失( )	
	金額	増減率	金額	増減率	金額	増減率
日本コムシスグループ	116,811	12.0%	83,980	4.0%	5,080	0.1%
サンワコムシス エンジニアリンググループ	20,849	2.5%	16,684	6.1%	86	33.4%
TOSYSグループ	10,611	13.3%	8,720	5.9%	27	85.1%
つうけんグループ	26,069	19.3%	18,917	8.4%	820	5.1%
コムシス情報システムグループ	3,956	9.7%	3,593	13.3%	237	4.5%

(注) 「受注高」及び「売上高」は外部顧客への取引高を記載しております。なお、「セグメント利益又は損失( )」は当社及びセグメント間取引により生じた利益を含んでおります。

## (2) 財政状態の分析

### (資産の部)

当第2四半期連結会計期間末における流動資産は、前連結会計年度末に比べ183億9千万円減少し、1,371億5千万円となりました。これは、現金預金が82億7千万円、未成工事支出金等が129億5千万円増加し、受取手形・完成工事未収入金等が400億8千万円減少したことなどによるものであります。当第2四半期連結会計期間末における固定資産は、前連結会計年度末に比べ36億6千万円増加し、1,141億7千万円となりました。これは、有形固定資産が104億円、無形固定資産が3億円増加し、投資その他の資産が70億4千万円減少したことによるものであります。

この結果、当第2四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べ147億3千万円減少し、2,513億2千万円となりました。

### (負債の部)

当第2四半期連結会計期間末における流動負債は、前連結会計年度末に比べ170億2千万円減少し、441億9千万円となりました。これは、支払手形・工事未払金等が141億1千万円減少したことなどによるものであります。当第2四半期連結会計期間末における固定負債は、前連結会計年度末に比べ12億円増加し、95億円となりました。

### (純資産の部)

当第2四半期連結会計期間末における純資産は、前連結会計年度末に比べ10億8千万円増加し、1,976億2千万円となりました。これは、利益剰余金が12億1千万円増加したことなどによるものであります。

この結果、自己資本比率は78.2%（前連結会計年度末は73.4%）となりました。

## (3) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物は、前連結会計年度末に比べ83億円増加し、371億2千万円となりました。当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

### <営業活動によるキャッシュ・フロー>

営業活動によるキャッシュ・フローは、売上債権の減少額440億5千万円、税金等調整前四半期純利益61億8千万円などの増加要因に対し、仕入債務の減少額212億7千万円、未成工事支出金等の増加額128億9千万円などの減少要因を差し引いた結果、164億5千万円の収入（前第2四半期連結累計期間は141億6千万円の収入）となりました。

### <投資活動によるキャッシュ・フロー>

投資活動によるキャッシュ・フローは、有形固定資産の取得による支出34億9千万円などにより、37億円の支出（前第2四半期連結累計期間は35億5千万円の支出）となりました。

### <財務活動によるキャッシュ・フロー>

財務活動によるキャッシュ・フローは、自己株式の取得による支出40億1千万円、配当金の支払額22億1千万円などにより、60億8千万円の支出（前第2四半期連結累計期間は66億8千万円の支出）となりました。

## (4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、コムシスグループの事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

## (5) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間の研究開発費の総額は5千万円であります。

なお、当第2四半期連結累計期間においてコムシスグループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

## (6) 主要な設備

前連結会計年度末において計画中であった主要な設備の新設のうち、当第2四半期連結累計期間に完了したものは、次のとおりであります。

会社名 事業所名 (所在地)	セグメントの名称	設備の内容	投資総額 (百万円)	完了年月
日本コムシス(株) 福岡テクノステーション (福岡県筑紫野市)	日本コムシスグループ	工事基地 事務所	1,328	平成28年6月
(株)TOSYS TOSYS松本ビル (長野県松本市)	TOSYSグループ	工事基地 事務所	1,478	平成28年6月

当第2四半期連結累計期間において、新たに確定した主要な設備の新設の計画は、次のとおりであります。

会社名 事業所名 (所在地)	セグメントの名称	設備の内容	投資予定額		資金調達 方法	着手年月	完了予定 年月	完成後の 増加能力
			総額 (百万円)	既支払額 (百万円)				
日本コムシス(株) 賃貸用不動産 (福岡市博多区)	日本コムシス グループ	賃貸用 不動産	332		自己資金	平成30年 5月	平成31年 1月	(注)

(注) 完成後の増加能力については合理的に算定できないため記載しておりません。

会社名 事業所名 (所在地)	セグメントの名称	設備の内容	投資予定額		資金調達 方法	着手年月	完了予定 年月	完成後の 増加能力
			総額 (百万円)	既支払額 (百万円)				
(株)TOSYS (仮称)南信事業所 (長野県上伊那郡)	TOSYS グループ	工事基地 事務所	600		自己資金	平成29年 10月	平成30年 4月	分散施設の集約等による 作業効率の向上

また、当第2四半期連結累計期間において、新たに確定した除却等の計画はありません。

## 第3 【提出会社の状況】

## 1 【株式等の状況】

## (1) 【株式の総数等】

## 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	580,000,000
計	580,000,000

## 【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成28年9月30日)	提出日現在発行数(株) (平成28年11月10日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	141,000,000	141,000,000	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数は 100株であります。
計	141,000,000	141,000,000		

## (2) 【新株予約権等の状況】

当第2四半期会計期間において発行した新株予約権は、次のとおりであります。

会社法第236条、第238条及び第240条の規定に基づき発行した新株予約権

決議年月日	平成28年8月5日
新株予約権の数(個)	592
新株予約権のうち自己新株予約権の数	
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式
新株予約権の目的となる株式の数(株)	59,200 (注)1
新株予約権の行使時の払込金額(円)	1株当たり 1
新株予約権の行使期間	平成28年8月24日～平成58年8月23日
新株予約権の行使により株式を発行する場合の 株式の発行価格及び資本組入額(円)	発行価格 1,705 資本組入額 853
新株予約権の行使の条件	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 新株予約権の割当てを受けた者(以下「新株予約権者」という。)は、当社又は当社完全子会社の取締役の地位に基づき割当てを受けた新株予約権につき、当該会社の取締役の地位を喪失した日の翌日から10日間以内に、新株予約権を行使することができるものとする。但し、新株予約権者が当該会社の取締役の地位にある場合においても、平成57年8月24日以降においては新株予約権を行使することができるものとする。</li> <li>2. 新株予約権者が死亡した場合、相続人は新株予約権を承継することができるものとする。但し、この場合、相続人は新株予約権者が死亡した日から6ヵ月間に限り本新株予約権を行使できるものとする。</li> <li>3. 各新株予約権の一部行使はできないものとする。</li> </ol>
新株予約権の譲渡に関する事項	譲渡による新株予約権の取得については、当社取締役会の承認を要する。
代用払込みに関する事項	
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	(注)2

- (注) 1 新株予約権 1 個当たりの目的である株式数（以下「付与株式数」という。）は、当社普通株式100株とする。なお、付与株式数は、新株予約権を割り当てる日後、当社が株式分割（当社普通株式の無償割当てを含む。以下同じ。）又は株式交換を行う場合は、次の算式により調整されるものとする。但し、かかる調整は、当該時点で行使されていない新株予約権の付与株式数について行われ、調整の結果生じる 1 株未満の端数については、これを切り捨てるものとする。

調整後付与株式数 = 調整前付与株式数 × 分割又は併合の比率

調整後付与株式数は、株式分割の場合は、当該株式分割の基準日の翌日以降、株式併合の場合は、その効力発生日以降、これを適用する。

また、上記のほか、付与株式数の調整を必要とするときは、合理的な範囲で付与株式数を調整するものとする。

- 2 当社が、合併（当社が合併により消滅する場合に限る。）、吸収分割もしくは新設分割（それぞれ当社が分割会社となる場合に限る。）、又は株式交換もしくは株式移転（それぞれ当社が完全子会社となる場合に限る。）（以上を総称して以下「組織再編成行為」という。）をする場合において、組織再編成行為の効力発生日（吸収合併につき吸収合併がその効力を生ずる日、新設合併につき新設合併設立株式会社の成立の日、吸収分割につき吸収分割がその効力を生ずる日、新設分割につき新設分割設立株式会社の成立の日、株式交換につき株式交換がその効力を生ずる日、及び株式移転につき株式移転設立完全親会社の成立の日をいう。以下同じ。）の直前において残存する新株予約権（以下「残存新株予約権」という。）を保有する新株予約権者に対し、それぞれの場合につき、会社法第236条第 1 項第 8 号のイからホまでに掲げる株式会社（以下「再編成対象会社」という。）の新株予約権をそれぞれ交付することとする。この場合においては、残存新株予約権は消滅し、再編成対象会社は新株予約権を新たに発行するものとする。但し、以下の各号に沿って再編成対象会社の新株予約権を交付する旨を、吸収合併契約、新設合併契約、吸収分割契約、新設分割計画、株式交換契約又は株式移転計画において定めることを条件とする。

- (1) 交付する再編成対象会社の新株予約権の数

新株予約権者が保有する残存新株予約権の数と同一の数をそれぞれ交付する。

- (2) 新株予約権の目的である再編成対象会社の株式の種類

再編成対象会社の普通株式とする。

- (3) 新株予約権の目的である再編成対象会社の株式の数

組織再編成行為の条件等を勘案のうえ、上記「新株予約権の目的となる株式の数」に準じて決定する。

- (4) 新株予約権の行使に際して出資される財産の価額

交付される各新株予約権の行使に際して出資される財産の価額は、以下に定める再編成後行使価額に、上記(3)に従って決定される当該各新株予約権の目的である再編成対象会社の株式の数を乗じて得られる金額とする。再編成後行使価額は、交付される各新株予約権を行使することにより交付を受けることができる再編成対象会社の株式 1 株当たり 1 円とする。

- (5) 新株予約権を行使することができる期間

上記「新株予約権の行使期間」の開始日又は組織再編成行為の効力発生日のうちいずれか遅い日から、上記「新株予約権の行使期間」の満了日までとする。

- (6) 新株予約権の行使により株式を発行する場合における増加する資本金及び資本準備金に関する事項

新株予約権の行使により株式を発行する場合における増加する資本金の額は、会社計算規則第17条第 1 項に従い算出される資本金等増加限度額の 2 分の 1 の金額とし、計算の結果生じる 1 円未満の端数は、これを切り上げる。

新株予約権の行使により株式を発行する場合における増加する資本準備金の額は、上記記載の資本金等増加限度額から上記に定める増加する資本金の額を減じた額とする。

- (7) 譲渡による新株予約権の取得の制限

譲渡による新株予約権の取得については、再編成対象会社の取締役会の承認を要する。

- (8) 新株予約権の取得の事由及び条件

(注) 3 の新株予約権の取得の事由及び条件に準じて決定する。

- 3 新株予約権の取得の事由及び条件

以下の 、 、 、 又は の議案につき当社株主総会で承認された場合（株主総会決議が不要の場合は、当社の取締役会決議又は会社法第416条第 4 項の規定に従い委任された執行役の決定がなされた場合）は、取締役会が別途定める日に、当社は無償で新株予約権を取得することができる。

当社が消滅会社となる合併契約承認の議案

当社が分割会社となる分割契約もしくは分割計画承認の議案

当社が完全子会社となる株式交換契約もしくは株式移転計画承認の議案

当社の発行する全部の株式の内容として譲渡による当該株式の取得について当社の承認を要することについての定めを設ける定款の変更承認の議案

新株予約権の目的である種類の株式の内容として譲渡による当該種類の株式の取得について当社の承認を要すること又は当該種類の株式について当社が株主総会の決議によってその全部を取得することについての定めを設ける定款の変更承認の議案

## 会社法第236条、第238条及び第239条の規定に基づき発行した新株予約権

決議年月日	平成28年 8 月 5 日
新株予約権の数(個)	3,675
新株予約権のうち自己新株予約権の数	
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式
新株予約権の目的となる株式の数(株)	367,500 (注) 1
新株予約権の行使時の払込金額(円)	1株当たり 1,923 (注) 2
新株予約権の行使期間	平成30年 8 月24日 ~ 平成37年 8 月23日
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額(円)	発行価格 1,923 資本組入額 962
新株予約権の行使の条件	1. 新株予約権の割当てを受けた者(以下「新株予約権者」という。)は、権利行使時において当社又は当社子会社の取締役、監査役、執行役員又は従業員のいずれかの地位を有していることを要する。ただし、任期満了による退任、定年又は会社都合による退職の場合はこの限りではない。 2. 新株予約権の相続はこれを認めない。 3. 各新株予約権の一部行使はできないものとする。
新株予約権の譲渡に関する事項	譲渡による新株予約権の取得については、当社取締役会の承認を要する。
代用払込みに関する事項	
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	(注) 3

(注) 1 新株予約権 1個当たりの目的である株式数(以下「付与株式数」という。)は、当社普通株式100株とする。なお、付与株式数は、新株予約権を割り当てる日(以下「割当日」という。)後、当社が株式分割(当社普通株式の無償割当てを含む。以下同じ。)又は株式併合を行う場合は、次の算式により調整されるものとする。ただし、かかる調整は、当該時点で行使されていない新株予約権の付与株式数について行われ、調整の結果生じる 1 円未満の端数については、これを切り捨てるものとする。

$$\text{調整後付与株式数} = \text{調整前付与株式数} \times \text{分割又は併合の比率}$$

また、上記のほか、付与株式数の調整を必要とするときは、合理的な範囲で付与株式数を調整するものとする。

2 割当日以降、以下の事由が生じた場合は、新株予約権の行使により交付を受けることができる株式 1 株当たりの払込金額(以下「行使価額」という。)をそれぞれ調整する。

(1) 当社が株式分割又は株式併合を行う場合は、次の算式により行使価額を調整し、調整の結果生じる 1 円未満の端数は切り上げるものとする。

$$\text{調整後行使価額} = \text{調整前行使価額} \times \frac{1}{\text{分割又は併合の比率}}$$

(2) 当社が時価を下回る価額で新株式の発行又は自己株式の処分を行う場合(新株予約権の行使による場合を除く。)は、次の算式により行使価額を調整し、調整の結果生じる 1 円未満の端数は切り上げるものとする。

$$\text{調整後行使価額} = \text{調整前行使価額} \times \frac{\text{既発行株式数} + \frac{\text{新規発行株式数} \times 1 \text{株当たり払込金額}}{\text{時 価}}}{\text{既発行株式数} + \text{新規発行株式数}}$$

上記の算式において、「既発行株式数」とは、当社の発行済株式総数から当社が保有する自己株式の数を控除した数とし、また、自己株式の処分を行う場合には「新規発行株式数」を「処分する自己株式数」と読み替えるものとする。

(3) 当社が合併又は会社分割を行う等、行使価額の調整を必要とするやむを得ない事由が生じたときは、合併又は会社分割の条件等を勘案のうえ、合理的な範囲で行使価額を調整するものとする。

3 当社が、合併(当社が合併により消滅する場合に限る。)、吸収分割もしくは新設分割(それぞれ当社が分割会社となる場合に限る。)、又は株式交換もしくは株式移転(それぞれ当社が完全子会社となる場合に限る。)(以上を総称して以下「組織再編成行為」という。)をする場合において、組織再編成行為の効力発生日(吸収合併につき吸収合併がその効力を生ずる日、新設合併につき新設合併設立株式会社の成立の日、吸収分割につき吸収分割がその効力を生ずる日、新設分割につき新設分割設立株式会社の成立の日、株式交換につき株式交換がその効力を生ずる日、及び株式移転につき株式移転設立完全親会社の成立の日をいう。以下同じ。)の直前において残存する新株予約権(以下「残存新株予約権」という。)を保有する新株予約権者に対し、それぞれの場合につき、会社法第236条第 1 項第 8 号のイからホまでに掲げる株式会社(以下「再編成対象会社」という。)の新株予約権をそれぞれ交付することとする。この場合においては、残存新株予約権は消滅し、再編成対象会社は新株予約権を新たに発行するものとする。但し、以下の各号に沿って



再編成対象会社の新株予約権を交付する旨を、吸収合併契約、新設合併契約、吸収分割契約、新設分割計画、株式交換契約又は株式移転計画において定めることを条件とする。

- (1) 交付する再編成対象会社の新株予約権の数  
新株予約権者が保有する残存新株予約権の数と同一の数をそれぞれ交付する。
  - (2) 新株予約権の目的である再編成対象会社の株式の種類  
再編成対象会社の普通株式とする。
  - (3) 新株予約権の目的である再編成対象会社の株式の数  
組織再編成行為の条件等を勘案のうえ、上記「新株予約権の目的となる株式の数」に準じて決定する。
  - (4) 新株予約権の行使に際して出資される財産の価額  
交付される各新株予約権の行使に際して出資される財産の価額は、(注)2で定められる行使価額を組織再編成行為の条件等を勘案のうえ調整して得られる再編成後払込金額に上記(3)に従って決定される当該新株予約権の目的である再編成対象会社の株式の数を乗じて得られる金額とする。
  - (5) 新株予約権を行使することができる期間  
上記「新株予約権の行使期間」の開始日又は組織再編成行為の効力発生日のうちいずれか遅い日から、上記「新株予約権の行使期間」の満了日までとする。
  - (6) 新株予約権の行使により株式を発行する場合における増加する資本金及び資本準備金に関する事項  
新株予約権の行使により株式を発行する場合における増加する資本金の額は、会社計算規則第17条第1項に従い算出される資本金等増加限度額の2分の1の金額とし、計算の結果生じる1円未満の端数は、これを切り上げる。  
新株予約権の行使により株式を発行する場合における増加する資本準備金の額は、上記記載の資本金等増加限度額から上記に定める増加する資本金の額を減じた額とする。
  - (7) 譲渡による新株予約権の取得の制限  
譲渡による新株予約権の取得については、再編成対象会社の取締役会の承認を要する。
- 4 新株予約権の取得の事由及び条件  
当社が消滅会社となる合併契約承認の議案、当社が分割会社となる吸収分割契約もしくは新設分割計画承認の議案、又は、当社が完全子会社となる株式交換契約もしくは株式移転計画承認の議案につき当社株主総会で承認された場合(株主総会決議が不要の場合は、当社の取締役会決議又は会社法416条第4項の規定に従い委任された執行役の決定がなされた場合)は、取締役会が別途定める日に、当社は、新株予約権を無償で取得することができる。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成28年7月1日～ 平成28年9月30日		141,000,000		10,000		10,000

## (6) 【大株主の状況】

平成28年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数の 割合(%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	東京都港区浜松町二丁目11番3号	18,750	13.29
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	東京都中央区晴海一丁目8番11号	12,612	8.94
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(三井住友信託銀行再信託分・住友電気工業株式会社退職給付信託口)	東京都中央区晴海一丁目8番11号	5,166	3.66
資産管理サービス信託銀行株式会社(証券投資信託口)	東京都中央区晴海一丁目8番12号 晴海アイランドトリトンスクエア オフィスタワーZ棟	3,159	2.24
日本生命保険相互会社	東京都千代田区丸の内一丁目6番6号 日本生命証券管理部内	2,590	1.83
ゴールドマン・サックス証券株式会社	東京都港区六本木六丁目10番1号 六本木ヒルズ森タワー	2,113	1.49
明治安田生命保険相互会社	東京都千代田区丸の内二丁目1番1号	1,554	1.10
日本電気株式会社	東京都港区芝五丁目7番1号	1,408	0.99
コムシスホールディングス従業員持株会	東京都品川区東五反田二丁目17番1号	1,369	0.97
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口9)	東京都中央区晴海一丁目8番11号	1,320	0.93
計		50,045	35.49

(注) 1 当社は、平成28年9月30日現在、自己株式29,874,030株(21.18%)を保有しておりますが、上記大株主から除外しております。

2 平成28年8月19日付けで公衆の縦覧に供されている大量保有報告書(変更報告書)において、三井住友信託銀行株式会社及びその共同保有者が平成28年8月15日現在で以下の株式を所有している旨が記載されているものの、当社として当第2四半期会計期間末における実質所有株式数の確認ができないため、上記大株主の状況には含めておりません。なお、大量保有報告書(変更報告書)の内容は以下のとおりであります。

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式総数に対する 所有株式数の割合(%)
三井住友信託銀行株式会社	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号	3,128	2.22
三井住友トラスト・アセットマネジメント株式会社	東京都港区芝三丁目33番1号	414	0.29
日興アセットマネジメント株式会社	東京都港区赤坂九丁目7番1号	5,270	3.74
計		8,813	6.25

3 平成28年10月3日付けで公衆の縦覧に供されている大量保有報告書(変更報告書)において、株式会社三菱UFJフィナンシャル・グループ及びその共同保有者が平成28年9月26日現在で以下の株式を所有している旨が記載されているものの、当社として当第2四半期会計期間末における実質所有株式数の確認ができないため、上記大株主の状況には含めておりません。なお、大量保有報告書(変更報告書)の内容は以下のとおりであります。

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式総数に対する 所有株式数の割合(%)
株式会社三菱東京UFJ銀行	東京都千代田区丸の内二丁目7番1号	427	0.30
三菱UFJ信託銀行株式会社	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号	5,055	3.59
三菱UFJ国際投信株式会社	東京都千代田区有楽町一丁目12番1号	2,972	2.11
三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社	東京都千代田区丸の内二丁目5番2号	263	0.19
計		8,719	6.18

## (7) 【議決権の状況】

## 【発行済株式】

平成28年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 29,874,000 (相互保有株式) 普通株式 90,100		
完全議決権株式(その他)	普通株式 110,901,000	1,109,010	
単元未満株式	普通株式 134,900		1 単元(100株)未満の株式
発行済株式総数	141,000,000		
総株主の議決権		1,109,010	

(注) 1 「完全議決権株式(その他)」及び「単元未満株式」の欄には、株式会社証券保管振替機構名義の株式が、それぞれ3,600株(議決権36個)及び48株含まれております。

2 「単元未満株式」の欄には、当社所有の自己株式30株、日本コムシス株式会社所有の相互保有株式26株が含まれております。

## 【自己株式等】

平成28年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) コムシスホールディングス 株式会社	東京都品川区東五反田 二丁目17番1号	29,874,000		29,874,000	21.18
(相互保有株式) 日本コムシス株式会社	東京都品川区東五反田 二丁目17番1号	90,100		90,100	0.06
計		29,964,100		29,964,100	21.25

## 2 【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4 【経理の状況】

### 1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に準拠して作成し、「建設業法施行規則」（昭和24年建設省令第14号）に準じて記載しております。

### 2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（平成28年7月1日から平成28年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成28年4月1日から平成28年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、仰星監査法人による四半期レビューを受けております。

## 1 【四半期連結財務諸表】

## (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成28年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金預金	28,930	37,209
受取手形・完成工事未収入金等	2 102,559	2 62,478
未成工事支出金等	15,261	28,215
その他のたな卸資産	1 502	1 631
その他	8,349	8,655
貸倒引当金	51	38
流動資産合計	155,551	137,152
固定資産		
有形固定資産		
建物・構築物(純額)	27,902	29,248
土地	39,265	40,180
その他(純額)	5,710	13,850
有形固定資産合計	72,878	83,279
無形固定資産		
のれん	2,935	3,312
その他	4,055	3,978
無形固定資産合計	6,990	7,291
投資その他の資産		
投資有価証券	10,460	10,249
その他	22,205	15,278
貸倒引当金	2,020	1,922
投資その他の資産合計	30,645	23,605
固定資産合計	110,514	114,176
資産合計	266,066	251,328

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成28年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形・工事未払金等	49,191	35,072
短期借入金	114	114
未払法人税等	3,296	969
未成工事受入金	710	2,612
引当金	223	254
その他	7,689	5,177
流動負債合計	61,225	44,199
固定負債		
再評価に係る繰延税金負債	1,428	1,369
退職給付に係る負債	3,726	4,427
役員退職慰労引当金	219	269
その他	2,921	3,438
固定負債合計	8,296	9,504
負債合計	69,522	53,704
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	10,000	10,000
資本剰余金	51,264	52,442
利益剰余金	176,847	178,058
自己株式	36,008	37,141
株主資本合計	202,104	203,358
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	2,350	2,131
土地再評価差額金	7,856	7,990
退職給付に係る調整累計額	1,219	977
その他の包括利益累計額合計	6,724	6,837
新株予約権	542	482
非支配株主持分	621	620
純資産合計	196,543	197,624
負債純資産合計	266,066	251,328

## (2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

## 【四半期連結損益計算書】

## 【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)
売上高	128,720	132,209
売上原価	112,594	115,674
売上総利益	16,126	16,534
販売費及び一般管理費	9,586	10,233
営業利益	6,540	6,301
営業外収益		
受取利息	32	8
受取配当金	106	115
貸倒引当金戻入額	208	82
その他	142	104
営業外収益合計	489	310
営業外費用		
支払利息	5	4
為替差損	116	82
その他	45	69
営業外費用合計	167	156
経常利益	6,862	6,456
特別利益		
投資有価証券売却益	4	161
企業結合における交換利益		84
負ののれん発生益	386	
その他	35	27
特別利益合計	426	274
特別損失		
固定資産除却損	48	29
減損損失		378
特別退職金	83	51
その他	22	84
特別損失合計	154	544
税金等調整前四半期純利益	7,134	6,186
法人税、住民税及び事業税	1,113	1,520
法人税等調整額	1,463	534
法人税等合計	2,577	2,055
四半期純利益	4,556	4,130
非支配株主に帰属する四半期純利益	11	2
親会社株主に帰属する四半期純利益	4,545	4,128

## 【四半期連結包括利益計算書】

## 【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)
四半期純利益	4,556	4,130
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	286	219
退職給付に係る調整額	131	241
その他の包括利益合計	154	21
四半期包括利益	4,401	4,152
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	4,394	4,150
非支配株主に係る四半期包括利益	7	2



## (3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	7,134	6,186
減価償却費	2,424	2,801
投資有価証券売却損益(は益)	4	161
投資有価証券評価損益(は益)	10	51
減損損失		378
負ののれん発生益	386	
のれん償却額	297	371
貸倒引当金の増減額(は減少)	278	112
退職給付に係る負債の増減額(は減少)	83	124
受取利息及び受取配当金	138	123
支払利息	5	4
売上債権の増減額(は増加)	37,628	44,051
未成工事支出金等の増減額(は増加)	9,950	12,892
仕入債務の増減額(は減少)	17,018	21,276
その他の資産の増減額(は増加)	192	788
その他の負債の増減額(は減少)	1,645	880
その他	88	83
小計	18,057	21,156
利息及び配当金の受取額	136	124
利息の支払額	5	4
法人税等の支払額	4,025	4,817
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>14,163</b>	<b>16,458</b>
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の増減額(は増加)	50	30
投資有価証券の取得による支出	204	1
投資有価証券の売却による収入	5	228
投資有価証券の償還による収入	100	
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による収入	216	
子会社株式の取得による支出	69	241
有形固定資産の取得による支出	1,916	3,496
無形固定資産の取得による支出	940	380
有形固定資産の売却による収入	97	77
貸付けによる支出	1,410	28
貸付金の回収による収入	451	77
保険積立金の積立による支出	5	84
保険積立金の解約による収入	224	256
その他	155	140
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>3,556</b>	<b>3,703</b>

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額（は減少）	8	5
長期借入金の返済による支出	8	4
自己株式の取得による支出	5,015	4,010
自己株式の売却による収入	112	202
子会社の自己株式の取得による支出	7	
配当金の支払額	1,718	2,215
非支配株主への配当金の支払額	3	2
ファイナンス・リース債務の返済による支出	37	46
財務活動によるキャッシュ・フロー	6,686	6,081
現金及び現金同等物に係る換算差額	0	0
現金及び現金同等物の増減額（は減少）	3,920	6,673
現金及び現金同等物の期首残高	33,435	28,818
連結の範囲の変更に伴う現金及び現金同等物の増減額 （は減少）	883	282
合併に伴う現金及び現金同等物の増加額	21	96
株式交換に伴う現金及び現金同等物の増加額		1,255
現金及び現金同等物の四半期末残高	38,260	37,127

## 【注記事項】

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

当第2四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年9月30日)
(1) 連結の範囲の重要な変更 (第1四半期連結会計期間) 当社を株式交換完全親会社とし、東京舗装工業(株)を株式交換完全子会社とする株式交換を実施したことに伴い、同社を連結の範囲に含めております。 非連結子会社であったコムシスクリエイト(株)は、重要性が増したため連結の範囲に含めております。
(2) 変更後の連結子会社の数 37社

(会計方針の変更等)

当第2四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年9月30日)
(会計方針の変更) 法人税法の改正に伴い、「平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱い」(実務対応報告第32号 平成28年6月17日)を第1四半期連結会計期間に適用し、平成28年4月1日以後に取得した建物附属設備及び構築物に係る減価償却方法を定率法から定額法に変更しております。 なお、当第2四半期連結累計期間において、四半期連結財務諸表に与える影響は軽微であります。

当第2四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年9月30日)
(会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更) 当社グループは従来、機械装置の減価償却方法は定率法を採用していましたが、太陽光発電設備等の発電事業用の機械装置については、第1四半期連結会計期間より定額法に変更しております。 当該変更は、太陽光発電設備による収益が使用期間にわたり安定的に見込まれるため、これに対応する減価償却費は、均等に原価配分する定額法が適していると判断したためであります。 当該変更により、従来の方法に比べて、当第2四半期連結累計期間の営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益が172百万円増加しております。

(追加情報)

当第2四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年9月30日)
「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」の適用 「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日)を第1四半期連結会計期間から適用しております。

## (四半期連結貸借対照表関係)

## 1 たな卸資産の内訳

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成28年9月30日)
商品	112百万円	89百万円
材料貯蔵品	390 "	542 "

## 2 受取手形裏書譲渡高

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成28年9月30日)
受取手形裏書譲渡高	205百万円	26百万円

## (四半期連結損益計算書関係)

販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は、次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)
従業員給与	4,244百万円	4,195百万円

## (四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)
現金預金	38,381百万円	37,209百万円
有価証券勘定	0 "	
預入期間が3ヶ月を超える 定期預金	121 "	82 "
現金及び現金同等物	38,260百万円	37,127百万円

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自平成27年4月1日至平成27年9月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成27年6月26日 定時株主総会	普通株式	1,719	15.00	平成27年3月31日	平成27年6月29日	利益剰余金

(注) 連結子会社が所有している自己株式に係る受取配当金(1百万円)を含めております。

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成27年11月6日 取締役会	普通株式	1,685	15.00	平成27年9月30日	平成27年12月4日	利益剰余金

(注) 連結子会社が所有している自己株式に係る受取配当金(1百万円)を含めております。

3. 株主資本の著しい変動

当第2四半期連結会計期間末における自己株式の残高は、前連結会計年度末より4,192百万円増加し、39,045百万円となっております。この主な要因は、平成27年5月8日開催の取締役会の決議に基づき、平成27年5月11日から平成27年9月17日までの期間に当社普通株式2,967千株を、総額4,999百万円にて取得したためであります。

当第2四半期連結累計期間(自平成28年4月1日至平成28年9月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成28年6月29日 定時株主総会	普通株式	2,216	20.00	平成28年3月31日	平成28年6月30日	利益剰余金

(注) 連結子会社が所有している自己株式に係る受取配当金(1百万円)を含めております。

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成28年11月8日 取締役会	普通株式	2,222	20.00	平成28年9月30日	平成28年12月5日	利益剰余金

(注) 連結子会社が所有している自己株式に係る受取配当金(1百万円)を含めております。

3. 株主資本の著しい変動

当第2四半期連結会計期間末における資本剰余金の残高は、前連結会計年度末より1,177百万円増加し、52,442百万円となっております。また、当第2四半期連結会計期間末における自己株式の残高は、前連結会計年度末より1,133百万円増加し、37,141百万円となっております。これらの主な要因は、以下のとおりであります。

株式交換

当社は平成28年4月1日を効力発生日として、当社を株式交換完全親会社、東京舗装工業株式会社を株式交換完全子会社とする株式交換により、自己株式2,128千株を交付いたしました。この結果、当第2四半期連結累計期間において資本剰余金が1,161百万円増加し、自己株式が2,538百万円減少しております。

自己株式の取得

当社は平成28年5月10日開催の取締役会の決議に基づき、平成28年7月1日から平成28年9月30日までの期間に自己株式2,118千株を取得しております。この結果、当第2四半期連結累計期間において自己株式が3,999百万円増加しております。

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自平成27年4月1日至平成27年9月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント						その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期 連結損益 計算書 計上額 (注3)
	日本 コムシス グループ	サンワ コムシス エンジニア リング グループ	TOSYS グループ	つうけん グループ	コムシス 情報 システム グループ	計				
売上高										
外部顧客への 売上高	80,772	17,774	9,268	17,447	3,170	128,433	287	128,720		128,720
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	3,086	171	2,047	79	857	6,241	3,451	9,693	9,693	
計	83,858	17,945	11,315	17,527	4,028	134,675	3,738	138,413	9,693	128,720
セグメント利益	5,083	130	187	781	248	6,431	1,790	8,221	1,681	6,540

(注) 1 「その他」の区分は、人材派遣事業、シェアードサービス事業等及び事業セグメントに帰属しない当社(純粋持株会社)であります。

2 セグメント利益の調整額は、当社及びセグメント間取引消去であります。

3 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(重要な負ののれん発生益)

北海道電電輸送(株)を株式の追加取得により連結子会社としたことに伴い、当第2四半期連結会計期間において負ののれん発生益329百万円を計上しております。同社はつうけんグループセグメントに属しますが、負ののれん発生益は特別利益であるため、上表には含めておりません。

なお、負ののれん発生益の計上額は、当第2四半期連結累計期間においては386百万円であります。

当第2四半期連結累計期間(自平成28年4月1日至平成28年9月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント						その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期 連結損益 計算書 計上額 (注3)
	日本 コムシス グループ	サンワ コムシス エンジニア リング グループ	TOSYS グループ	つうけん グループ	コムシス 情報 システム グループ	計				
売上高										
外部顧客への 売上高	83,980	16,684	8,720	18,917	3,593	131,897	312	132,209		132,209
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	3,115	1,151	1,583	173	737	6,760	6,479	13,240	13,240	
計	87,095	17,835	10,304	19,091	4,330	138,657	6,792	145,450	13,240	132,209
セグメント利益	5,080	86	27	820	237	6,253	4,778	11,032	4,730	6,301

(注) 1 「その他」の区分は、人材派遣事業、シェアードサービス事業等及び事業セグメントに帰属しない当社(純粋持株会社)であります。

2 セグメント利益の調整額は、当社及びセグメント間取引消去であります。

3 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

### (のれんの金額の重要な変動)

「日本コムシスグループ」セグメントにおいて、東京舗装工業㈱の株式を取得したため、第1四半期連結会計期間より、同社を連結の範囲に含めております。当該事象によるのれんの増加額は、当第2四半期連結累計期間において674百万円であります。

### (固定資産に係る重要な減損損失)

「日本コムシスグループ」セグメントにおいて、使用目的の変更により処分を予定している土地及び建物等について帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として計上しております。

なお、当該減損損失の計上額は、当第2四半期連結累計期間においては378百万円であります。

## 3. 報告セグメントの変更等に関する事項

### (会計方針の変更)

法人税法の改正に伴い、平成28年4月1日以後に取得した建物附属設備及び構築物に係る減価償却方法を定率法から定額法に変更したため、事業セグメントの減価償却の方法を同様に変更しております。

なお、当第2四半期連結累計期間において、セグメント利益に与える影響は軽微であります。

### (会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更)

第1四半期連結会計期間より、太陽光発電設備等の発電事業用の機械装置について、減価償却方法を定率法から定額法に変更しております。

当該変更は、太陽光発電設備による収益が使用期間にわたり安定的に見込まれるため、これに対応する減価償却費は、均等に原価配分する定額法が適していると判断したためであります。

当該変更により、従来の方法に比べて、当第2四半期連結累計期間の「日本コムシスグループ」のセグメント利益が172百万円増加しております。

## ( 1株当たり情報 )

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎並びに潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)
(1) 1株当たり四半期純利益金額	40円00銭	36円63銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額(百万円)	4,545	4,128
普通株主に帰属しない金額(百万円)		
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益金額(百万円)	4,545	4,128
普通株式の期中平均株式数(千株)	113,628	112,697
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額	39円83銭	36円51銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益調整額(百万円)		
(うち支払利息(税額相当額控除後)(百万円))		
普通株式増加数(千株)	490	385
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり 四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前 連結会計年度末から重要な変動があったものの概要		

## ( 重要な後発事象 )

当社は、平成28年11月8日開催の取締役会において、会社法第165条第3項の規定により読み替えて適用される同法第156条の規定に基づき、自己株式の取得に係る事項について決議いたしました。

## ( 1 ) 取得を行う理由

株主への一層の利益還元と企業環境の変化に対応した機動的な資本政策の遂行を可能とするため、自己株式の取得を行うものであります。

## ( 2 ) 取得に係る事項の内容

取得対象株式の種類	当社普通株式
取得し得る株式の総数	200万株(上限) (自己株式を除く発行済株式総数に対する割合 1.80%)
取得価額の総額	30億円(上限)
取得期間	平成28年11月9日から平成29年3月31日まで
取得の方法	東京証券取引所における市場買付



## 2 【その他】

平成28年11月8日開催の取締役会において、当期の中間配当に関し、次のとおり決議いたしました。

- |                         |            |
|-------------------------|------------|
| ( 1 ) 中間配当金の総額          | 2,222百万円   |
| ( 2 ) 1株当たりの金額          | 20円00銭     |
| ( 3 ) 支払請求の効力発生日及び支払開始日 | 平成28年12月5日 |

(注) 平成28年9月30日現在の株主名簿に記載又は記録された株主に対し、支払いを行います。

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成28年11月10日

コムシスホールディングス株式会社  
取締役会 御中

### 仰星監査法人

代表社員 業務執行社員	公認会計士	南	成人	印
業務執行社員	公認会計士	原	伸夫	印
業務執行社員	公認会計士	新島	敏也	印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているコムシスホールディングス株式会社の平成28年4月1日から平成29年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間(平成28年7月1日から平成28年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(平成28年4月1日から平成28年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、コムシスホールディングス株式会社及び連結子会社の平成28年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2 XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれておりません。